



## 資料2

# 乳がん超音波検査導入後の 検診結果

令和4年(2022年)2月28日  
がん対策部会

# 1 平成30年度以降の月別乳がん検診の受診者数

40歳以上50歳未満

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度						979	1,098	1,609	1,441	1,212	855	1,202	1,717	10,113
令和元年度						1,010	1,289	1,410	1,368	1,240	1,134	1,400	1,483	10,334
	令和元年度 (マンモのみ)	エコー、令和元年 8月より開始				480	478	559	585	491	419	533	484	4,029
	令和元年度 (マンモ+エコー)					530	811	851	783	749	715	867	999	6,305
令和2年度		302	185	533	973	1,065	1,235	1,708	1,354	1,112	1,003	1,540	2,209	13,219
	令和2年度 (マンモのみ)	83	41	161	312	363	404	561	505	451	364	494	801	4,540
	令和2年度 (マンモ+エコー)	219	144	372	661	702	831	1,147	849	661	639	1,046	1,408	8,679

※1 エコーの受診割合：令和元年度（8月以降） 61.0% 令和2年度（通年） 65.7%

## ○まとめ

- ・令和元年度3月から令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて受診者数が大幅に減少した。
- ・令和2年度の下半期は平年度と同水準まで回復した。前年度を上回る受診者数になる月もあった。
- ・受診者に占める乳エコー受診者の割合は、令和2年度は約66%（令和元年度は約61%）であった。

## 2 一次検診結果の年度比較

		受診者数	要精検者	要精検率 <sup>※2</sup>
平成29年度	マンモのみ	13,309	741	5.6%
平成30年度	マンモのみ	13,321	816	6.1%
令和元年度	マンモのみ	6,557	330	5.0%
	マンモ+エコー	6,305	302	4.8%
令和2年度	マンモのみ	4,152	213	5.1%
	マンモ+エコー	8,711	421	4.8%

※2 国の指標値:11.0%以下

### ○まとめ

- 乳エコーを追加して受診した場合、要精検率は上がることを想定していたが、令和元年度、令和2年度を通して数値の上昇はみられなかった。
- 国の指標値を上回った年度はなかった。

### 3 要精検者の精密検査受診結果

	要精検者	精検受診者数	精検受診率※3	侵襲的検査率※4	がん発見者	陽性反応的中度※5	がん発見率※6
平成29年度	741	467	63.0%	31.8%	28	6.0%	0.21%
平成30年度	816	525	64.3%	35.8%	52	9.9%	0.39%
令和元年度	632	441	69.8%	60.7%	42	9.5%	0.41%
	マンモのみ	330	64.5%	39.1%	12	5.6%	0.18%
	マンモ+エコー	302	75.5%	86.5%	30	13.2%	0.48%
令和2年度	634	436	68.8%	67.6%	47	10.8%	0.37%
	マンモのみ	213	54.9%	26.3%	6	5.1%	0.14%
	マンモ+エコー	421	75.8%	79.8%	41	12.9%	0.47%

※3 国の指標値:80%以上

※4 侵襲的検査率:精密検査時に「組織診または穿刺細胞診」を受けた者の割合

※5 国の指標値:2.5%以上

※6 国の指標値:0.23%以上

# p値<0.05  
がん発見率に  
有意差があっ  
た

#### ○まとめ

- いずれの年度とも、乳エコーを受けた方はマンモのみと比較して、J-STARTと同様にがん発見率や陽性反応的中度は高くなった。
- 乳エコーを受けて要精検となり、身体に侵襲を伴う「組織診または穿刺細胞診」を受けた方の割合は、マンモのみで要精検となった方より令和元年度で約40%、令和2年度で約50%高くなった。
- 精検受診率は、いずれの年度も国の指標値を上回ることはなかったが、エコー受診者はマンモのみと比較して10~20%程度高くなった。